

献血量・献血者数の動向

図2-2は、平成16年度から28年度までの献血量と献血者数の推移を示しています。平成28年度の献血量は約191万Lであり、献血者数は、200mL全血献血約16万人、400mL全血献血約327万人、成分献血約140万人、合計約483万人でした。

図2-3における、平成26年度から28年度までの月別の献血量及び図2-4における月別の献血者数の推移によると、献血量と献血者数は、例年、夏期や冬期に減少する傾向が見受けられます。

これらのことから、国、地方公共団体及び日本赤十字社は、「愛の血液助け合い運動」（7月）、「はたちの献血キャンペーン」（1～2月）等の広報活動を行い、献血量及び献血者数の確保に努めています。（図2-5）

平成17年2月に国内で初めて変異型クロイツフェルト・ヤコブ病（vCJD）患者が確認されました。vCJDは血液により感染する可能性が指摘されたことから、当分の間の暫定措置として、昭和55年から平成8年の間に英国に1日以上滞在歴のある方からの献血を

制限することを決定し、同年6月より実施することになりました。（現在は1カ月以上の滞在歴に緩和）これにより、献血者がさらに減少し医療に必要な血液が不足するおそれが生じたため、同年4月に厚生労働大臣を本部長とする「献血推進本部」を省内に設置し、関係部局一丸となって献血の確保、血液製剤の適正使用等の対策の推進を図るとともに厚生労働大臣自らによる街頭での献血者確保のための「緊急アピール」等のはたらきかけを行いました。この結果、平成19年度から献血量が増加し、年間を通して、安定供給に必要な献血量を確保することができました。

平成22年度以降、献血量は再び減少傾向が続いていますが、医療に必要な血液は確保できています。しかし、今後は若年層の献血者の減少が続くと考えられることから、若年層に対する献血推進活動、季節変動や地域差を考慮した献血の呼びかけや在庫状況の確認を引き続き行います。

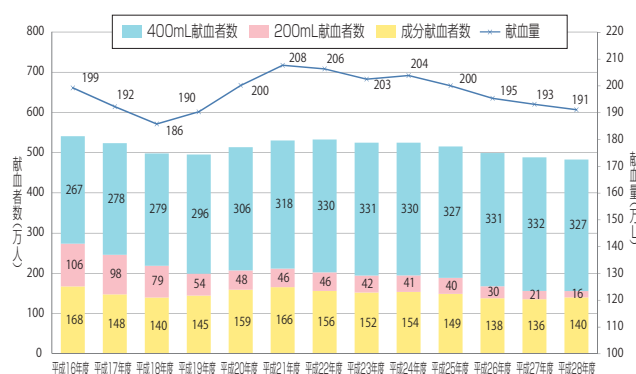


図2-2 献血量及び採血種類別献血者数

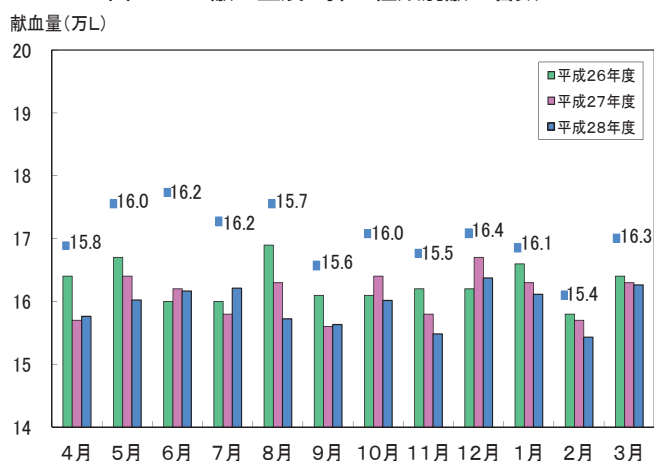


図2-3 月別の献血量

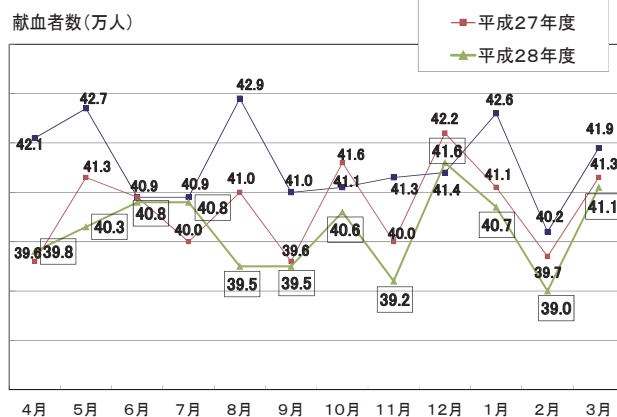


図2-4 月別の献血者数の推移



図2-5 ポスター